

第2回 宗像市市民文化・芸術活動審議会
会 議 議 事 録

日	時	平成30年6月28日（木）14:00～17:30
会	場	宗像市役所103B会議室
出席者	委 員	☒ 古賀 ☒ 原 ☒ 大澤 ☒ 吉田 ☒ 内 ☒ 牟田
	事務局	☒ 古沢 ☒ 大塚 ☒ 愛月 ☐ 白木（文化財）

1. 会長あいさつ

本日は、平成30年度宗像市文化芸術活動事業補助金の審査を行う。制度を変更して2度目の審査となる。昨年度は新しい制度に則った申請は1団体だったのに対し、今年度は4団体から申請されている。昨年度とは違う新たな気持ちで審査に当たりたい。委員の皆様と活発な意見を交わしながら審査をしたいと思っているので、よろしくお願いいたします。

2. 第1回議事録の確認

【事務局】修正がある場合は、7月6日（金）までに事務局に連絡を。

3. 平成30年度宗像市文化芸術活動事業補助金審査

（1）審査方法の説明

（2）審査

①M. M. S. T

【M. M. S. T】事業委員E容説明

【委員A】質問があれば、お願いしたい。

【委員D】事業委員E容の中に「データの調査・収集」とあり、歴史・地政学・人口といった視点を軸にするようだが、具体的にどのようなデータを期待しているのかを教えて欲しい。

【M. M. S. T】あらゆるデータを集めようと思っている。宗像市の成り立ちが分かるもの、例えば郷土史などを利用する。市民の声を直接聴くために実地調査もやりたい。

【委員D】どのような答えを期待して、どういった質問をするのか。

【M. M. S. T】質問事項は検討中であるが、私たち自身が宗像市民ではなく、住んでいて思うことや宗像ユリックスを利用しているかなど、宗像市民の暮らしを一から探っていきたい。

【委員D】その結果を活かして演劇という形で表現するということか。ダンスではないのか。演劇の中でそのデータを活かすということか。演劇というと物語の中でデータを活かす方法しか思いつかない。他に反映させる方法があれば教えて欲しい。

【M. M. S. T】台本がある演劇作品を演じるのではなく、今回の演劇は、人が集った空間、時間、場所を指している。

【委員C】「都市をスキャンする装置としての演劇」が、この申請のポイントとなると思うが、着想を得たきっかけが何かを教えて欲しい。

【M. M. S. T】台本のある演劇作品を上演するかどうか、申請の直前まで悩んだ。演劇を「都市をスキャンする装置」とすることは、時間もお金もかかるため、今の時代に逆行している。他の方法であれば時間を短縮することはできるが、考えることや人の思いが不足してしまい、人が考えたことや人の思いを抽出す

るには演劇という手段が最も良い手段だと考える。データや数値から分析するよりも人が集まった方がよりリアルな情報が集められる。

【委員 F】補助終了後の活動について教えて欲しい。

【M. M. S. T】M. M. S. Tは福岡市を拠点に釜山や台湾など、さまざまな場所や空間で作品を作っている。今後は演劇を手段として、福岡県や九州、世界における宗像市とは何かを問い続けていきたい。

【委員 A】今までに地域について調査をして創作活動をした経験はあるか。

【M. M. S. T】ここまで深く、長期間で実施したことはない。

②風と踊ろう

【風と踊ろう】事業委員 E 容説明

【委員 A】質問があれば、お願いしたい。

【委員 C】団体の人数を教えてください。

【風と踊ろう】子どもが20人いる。

【委員 C】予算書の参加費に記載されている「参加者20人」は、団員のことを指しているのか。

【風と踊ろう】この事業は大人を対象としている。大人を対象にチラシで参加を呼びかける。子どもは補助役として一緒に事業に参加するが、参加費は徴取しない。

【委員 A】年に1回ないし2回公演活動を実施されているが、今回の申請している事業が、今まで実施している公演と違う新しい点は何か。

【風と踊ろう】今までの公演は子どもが対象だったが、今回の事業は大人を対象としている。大人が出演して、観ている大人も楽しめるような委員 E 容にしたい。地域の方、特に大人に参加してもらうことで、地域との繋がりや宗像の自然などを共有し、それをダンスなどで表現して、共有できる財産としたい。

【委員 A】予算書の講師謝金の支払対象は誰か。

【風と踊ろう】団体の代表者を支払対象としている。

【委員 C】代表者が師事していた愛媛大学の牛山眞貴子氏は来られるのか。

【風と踊ろう】代表者が師事をしていた方であるが、今回の事業には参加されない。

【委員 F】今までの子ども達の公演では、どれくらい集客があったのか。

【風と踊ろう】およそ100人。

【委員 A】今回も同様の集客を見込んでいるのか。

【風と踊ろう】できれば、多くを集客したい。

【委員 A】委員 B 材料費に衣装代、舞台美術とあるが、制作のための人件費が計上されていない。制作に人件費は不要か。

【風と踊ろう】今までは保護者が制作しており、外注したことはない。制作が難しい衣装は使っていないので、出演者かお手伝いいただける方に制作をお願いしようと思っている。舞台美術に関しても大がかりなセットや音響を使ったことはなく、今回も自分たちで用意できる範囲で実施しようと思っている。

【委員 A】音響設備は使用するのか。

【風と踊ろう】会場が広く、参加人数も多いため、音響設備は使用する。

【委員 A】会場として使用する神社とは、使用に関しての調整はしているか。

【風と踊ろう】神主と調整をしているか確認は取れていないが、地元の方から会場として使用して欲しいとお声かけがあったと聞いている。

【事務局】団体として文化芸術と健康づくりや心の健康などの目的を持っているのか、練習場所としてコミュニティ・センターを想定されているが、自由ヶ丘地区コ

コミュニティ・センターを使用するのか、以上2点をお尋ねしたい。

【風と踊ろう】団体として、世代間交流や自然と人との関係など、目的を持って活動しているので、より多くの方に活動を知っていただきたい。練習場所としては、自由ヶ丘地区コミュニティ・センターやメイトム宗像を想定している。

③LIFESTYLES展実行委員会

【LIFESTYLES展実行委員会】事業委員E容説明

【委員A】質問があれば、お願いしたい。

【委員C】子どもの造形教室や野外造形活動といった活動の開催回数と想定している参加人数を教えてください。また、10月の展覧会の会期を教えてください。

【LIFESTYLES展実行委員会】およそ20人を3回程度に分けて招こうと思っている。また、福岡教育大の森の中に建てる小屋を起点として、子ども達の教室のような空間を作る。場や身体、土や木の枝などを通して、子ども達に森羅万象を感じさせられるような委員E容にしたい。10月の展覧会の会期は2～3週間を想定している。子ども達が自然を享受できるようなコンセプトで実施したい。

【委員C】大学の授業がある平日と展覧会の会期が重複して問題ないか。

【LIFESTYLES展実行委員会】特に問題はない。

【委員C】展覧会には常駐するのか。

【LIFESTYLES展実行委員会】研究室の学生にサポートしてもらい、起点となるような案委員E場所を作る。作品の保護も必要なので、誰かが常駐する体制をとる。

【委員B】告知には専用のホームページや何等かの媒体を使って、活動の周知を図る予定はあるか。

【LIFESTYLES展実行委員会】学生を巻き込まなければ大学で実施する意味がないため、学生を巻き込みながら実施したい。宗像では現代美術が根付いていないため、人間が自然の中で創造するものはどういうことなのか、自分のちっぽけさ、自然の豊かさ、手の豊かさ、脳と手の結びつきなど、幅広い視点で子ども達に接していきたい。

【委員D】森は平たん地が多いのか。

【LIFESTYLES展実行委員会】森は城山から赤間の街に繋がる尾根で、自然を残した状態となっている。美術館のような台座の上の作品を観る美術展ではなく、自然の中でも創作活動ができるということを我々も参加者も子ども達も、みんなで享受できればと思っている。

【委員D】森を構成している木も様々な種類があるのか。

【LIFESTYLES展実行委員会】理科の先生方がリサーチに供しているくらい種類はある。大学の豊かな場の一つとして大切にしている。

【委員D】建てる小屋の規模は。

【LIFESTYLES展実行委員会】大きくて2坪程度。寝食できるような場所ではなく、雨避け程度で、核になるような場所にしたい。

【委員F】参加予定者に赤間周辺の小・中・高校生とあるが、赤間周辺とは赤間地区を指しているのか。

【LIFESTYLES展実行委員会】大学周辺の子ども達の方が足を運びやすいので、対象は赤間周辺の小・中・高校生としている。足を運べる子ども達は問題なく受け入れる。

【委員 F】子ども達の募集が 8 月となっており、夏休みに入っているなので、早めに取りかかった方が良くと思う。

【委員 A】予算書の収入では作家の自己負担金として 6 名の参加者から自己負担金を出してもらうことになっており、支出では招待作家 2 名に謝金を支払うことになっている。自己負担金を出してもらうのは、どのような作家か。また、招待作家として想定している方を教えて欲しい。

【L I F E S T Y L E S 展実行委員会】国委員 E の作家を想定している。宗像の作家を育てるためにも、この企画に賛同できる福岡近隣の作家で、ユニークで若い活動的な作家の視点が欲しい。

【委員 A】実行委員会メンバーとは別の方か。

【L I F E S T Y L E S 展実行委員会】重複する可能性もあるが、基本的には別の方をお願いしたい。

④特定非営利活動法人えふネット福岡

【特定非営利活動法人えふネット福岡】事業委員 E 容説明

【委員 A】質問があれば、お願いしたい。

【委員 D】参加者は募集するのか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ハウオリ・ネイという私が指導しているフラダンスチームがあり、子どもも含めて所属している 5 0 名が中心に活動をする。

【委員 C】ハウオリ・ネイの団体の活動ということか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】竹を使ったハワイの伝統的な印刷技法であるオヘカパラを彫ったり、布にプリントして衣装を作る。竹の楽器を使った踊りであるプイリの曲を練習するのは、ハウオリ・ネイのメンバーが行う。発表会は出演枠を 3 0 枠設け、ハウオリ・ネイのメンバーだけではなく、他のフラの教室の方にも声を掛けて参加いただきたい。

【委員 A】ハウオリ・ネイはどのような団体か紹介して欲しい。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ハウオリ・ネイは私が指導するフラダンス教室。私はマヘアラニ・ミカ・ヒラオ・ソレム氏に師事している。

【委員 A】ハウオリ・ネイの活動拠点は。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】市委員 E で活動している。

【委員 C】この事業の目的がハワイの歴史や文化を学ぶということだと思うが、竹を使ったハワイの伝統的な印刷技法であるオヘカパラを彫ったり、布にプリントして衣装を作る過程はハウオリ・ネイのメンバーが行い、発表の場で一般の人たちやフラダンスをしている方々が参加するという認識で良いか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】間違いない。併せて、ハワイの古典柄を知っていただく機会にするために、彫った竹とプリントした衣装の布は展示したいと考えている。

【委員 F】発表会は参加費無料か。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】無料にする。

【委員 A】特定非営利活動法人えふネット福岡から申請されているが、ハウオリ・ネイの繋がりや、今回の申請事業について特定非営利活動法人えふネット福岡の関わり方を教えて欲しい。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】この事業において、アグレ 9 0 サポート協議会という横の繋がりを活用し、広報の支援を受けたいと考えている。ハウオリ・ネイのメンバーは特定非営利活動法人えふネット福岡の賛助会員となっており、

特定非営利活動法人えふネット福岡を支援するメンバーでもある。

【委員 A】この事業だけではなく、この二つの団体は日常的に支援をしており、関係が深い団体ということか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】日常的な支援はしていない。

【委員 C】予算書の収入にハウオリ・ネイ練習室利用料とあるが、ハウオリ・ネイが練習室を所有しているということか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ハウオリ・ネイは練習室を所有していない。練習する場所を借りるためのお金をハウオリ・ネイのメンバーから負担金として集める。

【委員 A】役務費にホームページ作成の費用が計上されているが、特定非営利活動法人えふネット福岡のホームページを作成するのか。本事業専用のホームページを作成するのか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】既存の特定非営利活動法人えふネット福岡のホームページに本事業のバナーを作ってもらおう。

【委員 A】どこかの団体に委託するということか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】委託する予定だが、委託先は決めていない。

【委員 C】委託料のダンサー派遣、司会者、通訳派遣はハウオリ・ネイに委託するのか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ダンサーはマヘアラニ・ミカ・ヒラオ・ソレム氏の指導を受けたダンサーに来ていただきたいので、マヘアラニ・ミカ・ヒラオ・ソレム氏が指導しているキロハナという団体から派遣してもらおう。司会者、通訳派遣の委託先は決まっていないが、専門用語もあるため、理解ある方に依頼したいと考えている。

【委員 C】謝礼ではなく委託という扱いでないと難しいのか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ダンサーはキロハナの規定の料金を支払うため、委託という形をとる。

【委員 A】旅費は別で支払うのか。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ダンサーの旅費は支払わない。マヘアラニ・ミカ・ヒラオ・ソレム氏が来られる場合は、旅費を計上する。

【委員 A】委託料の委員 E 訳を教えて欲しい。

【特定非営利活動法人えふネット福岡】ダンサーに支払う謝礼が占めている。マヘアラニ・ミカ・ヒラオ・ソレム氏を除くダンサーの旅費は支払わない。

(3) 一括審議

【委員 A】各団体のプレゼンテーションの感想を聴きたい。まず、M. M. S. Tについて、お願いしたい。

【委員 E】市民に還元するという視点が見受けられなかった。

【委員 C】他の団体にも共通するが、宗像市市民文化・芸術活動審議会における「新たな創造性」の許容量が試される。私自身の想像の範囲委員 E であれば、「新たな創造性」とは言わないと思う。手の届かないような委員 E 容を「新たな創造性」と言うつもりはないが、M. M. S. Tは手が届くか届かないかというレベルの提案をしており、その点については前向きに評価したい。

【委員 D】理想が先行してしまい、具体案がない。リサーチというのは重要な役割を担うが、リサーチの委員 E 容が決まっていない計画自体に無謀さを感じる。委員 C 委員の仰るとおり、「新たな創造性」の判断は難しい。団体の表現に課題があるようにも思う。このプレゼンテーションの委員 E 容では評価しにくい。

- 【委員 F】昨年度はプレゼンテーションの委員 E 容と実際に実施した事業の委員 E 容が乖離していた。今年度もプレゼンテーションの委員 E 容では事業のイメージがでず、再び乖離が起こるのではないと思う。
- 【委員 A】確かに事業委員 E 容が分かりづらかった。委員 F 委員の仰るように、今年度もプレゼンテーションの委員 E 容と実際に実施する事業の委員 E 容が乖離する可能性がある。ただ、演劇で宗像市をスキャンするという容易に理解できないように想像の枠を超えているからこそ、創造性のある事業になる可能性があるのではないか。委員の間で点数の開きがあるので、慎重に判断したい。
- 【委員 C】「新たな創造性のある文化芸術活動」に関する議論は必要である。分からないものに対してどう向き合うかは、審査をする上でも重要であるが、分からないものは普段の生活の中でも多くある。分からなくても向き合う態勢も必要ではないだろうか。リサーチについては、学問的な領域でいうと計画性も具体性もないように思えるが、アーティストのいうリサーチは、現場に行って、その土地や人と向き合い、対話する中で何が自分の関心事なのかを見つけていくところから始める。学術調査のように、予め、調査委員 E 容を決めてリサーチするという方法とは異なる。
- 【委員 A】委員 C 委員の仰るように学術調査とは全く異なる。学術調査の観点では理解に苦しむ委員 E 容ではあるが、学術調査としてこのリサーチを評価すると、アート関連のプロジェクトは成立しない。各委員の意見を聴いて、委員 B 委員はどう思うか。
- 【委員 B】新たなことに取り組むことにはリスクが付きもの。容易に理解できないような事業だが、温かく見守りたい。
- 【委員 A】点数からいえば補助対象事業として議論して良い委員 E 容になっている。
- 【委員 F】市民への周知を早めにしっかりと行って欲しい。
- 【委員 A】続いて、風と踊ろうについて意見を伺いたい。
- 【委員 F】今まで子どもが実施していた活動を大人が実施することは新鮮さに欠くが、新しい取り組みである。講師謝金は団体の代表を想定しているので対象外になる。
- 【委員 D】集客もある程度見込め、参加型であるという点においては、宗像市にとって良い取り組みである。演目も連鎖的なものであり、評価したい。ダンス自体は新しいジャンルではないが、参加しやすい。
- 【委員 B】ヒーリングの要素を取り入れている。市委員 E のケアハウスなどに参加者を募集することを検討しても良いのではないか。
- 【委員 C】代表の大塚氏が師事している愛媛大学の牛山氏は、舞踊教育の中ではかなり定評がある方。ボディトークという手法がヘルスケアとアートの関係を切り開いていく方法になり得るのではないだろうか。市民活動のような親しみやすさを売りにしているようだったが、宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョンに掲げる「文化芸術の他分野への活用」に展開する可能性がある。
- 【委員 E】子どもを核として市民に広げていくという発想は良いと思う。
- 【委員 A】世代間交流や地域との繋がり、宗像の自然を共有したいなど、文化的な活動で地域や社会の中にアプローチできるという可能性を感じた。明確な意識はされていないようだが、ボディトークが素晴らしさを広げていくというだけではなく、自分たちが実施している事業の社会的意義を明確に意識しながら、可能であれば言葉で伝えられるようになっていただきたいという期待感が持てた。そこを意識してもらえれば、補助事業として認めて問題ないと思う。続いて、L I F E S T Y L E S 展実行委員会について、意見を伺いたい。

- 【委員 E】面白い事業だと思った。子どもを対象にするのであれば、早めに周知を行って欲しい。福岡教育大学と市委員 E の学校とのネットワークを利用すれば、上手く周知できると思う。
- 【委員 C】優れた委員 E 容だった。過去に福岡市文化芸術振興財団の助成金を申請されていたが、報告会がとても興味深かった。持参されたパンフレットにも若手作家のいきいきした作品が掲載されていた。代表の阿部氏は県委員 E で若手作家を主導しているキーパーソンだと思う。福岡教育大学が宗像との繋がりを強めていくことで、大学の存在価値や、宗像の福岡県や九州における存在価値を高めていく可能性がある事業だと思う。
- 【委員 B】児童に参加募集するのであれば、大学の関係者や学校現場の先生方と連携することは可能である。美術科の先生方は地域との関わりを深めるために、これまでにも地域の子ども達を招いて一緒に創作活動を行っている。現代美術における宗像市の認知度は低いため、底上げをするという意味では福岡教育大学が核となって取り組むことは良いことだと思う。
- 【委員 D】人工林ではなく里山のような森を芸術に活かす点と近郊の若い作家を育てるために、実行委員とは別に参加してもらう点で、補助金を出すことは相応しいと思う。
- 【委員 A】審査票の条件・特記事項に「活動成果の可視化に努められたい」と記載したが、現代美術が宗像市において抜きん出ておらず、これから更に努力していかなければならない中で、持参されたパンフレットでは伝わりづらいものがある。委員 B 委員からコメントがあったが、ホームページなどでの情報発信の工夫が必要である。実施したことを発信して広がりを持たせて欲しい。興味深い企画になることが想像できるが故に外部に発信していかないと勿体ないと思う。続いて、特定非営利活動法人えふネット福岡について、意見を伺いたい。
- 【委員 D】団体の発表会のような委員 E 容だった。宗像市のためになるのか、宗像市で実施する必要性も感じなかった。
- 【委員 B】地域にフラダンス教室がいくつもあると思うが、関わりはあるのか。関わりがあれば、教室をしている主催者の方々と繋いで広めていくことができると思うが。
- 【事務局】他の教室と繋がりがあるかは聞いていない。宗像ユリックスでの発表会もこの事業の関係者を招待すると聞いている。
- 【委員 B】地域で活動している方はいるので、対象を絞って底上げするような企画であれば良かったと思う。
- 【委員 C】すべての申請団体を応援する気持ちで肯定的に見ていたが、評価が難しかった。この補助金の目的と事業の目的が違う。「新たな創造性のある文化芸術事業」補助金の予算の範囲委員 E であり、文化には違いないという理由で交付する姿勢をとるのか、主旨に照らし合わせると違うのではないかと決断をするのか、瀬戸際である。この事業を予算の範囲委員 E であり、文化には違いないという理由で交付を認めると、新たな創造性があるろうと無かろうと関係ないという話になり兼ねないため、厳しい判断をして良いと思う。
- 【委員 E】団体の発表会という印象が強かった。
- 【委員 A】私も皆さんが仰った意見と同感だ。特定非営利活動法人えふネット福岡から申請されているが、ハウオリ・ネイからの申請であれば印象が違ったかもしれない。広報支援が特定非営利活動法人えふネット福岡の役割だとしたら、どういった理由で特定非営利活動法人えふネット福岡から申請しているのだろうか。

代表者が両団体に密接に関わっており、重ね合わせながら活動しているという点は理解するが、特定非営利活動法人えふネット福岡の多角経営している点が気になる。そこも含めて、宗像市で実施することの意義があるように思えなかった。不採択の理由としては、「新たな創造性のある文化芸術事業であるかどうかという観点からみると、評価をすることができなかった」ということになる。では、全体を通して、採択か不採択か、また、付する条件について協議したい。まず、最も評価が高かったL I F E S T Y L E S展実行委員会については平均点も高く、皆さんの意見から判断しても採択とし、条件としては「活動成果の可視化に努められたい」ということでよろしいか。

【全委員】 良い。

【委員 A】 次に評価の高かった風と踊ろうについては、50点以下の評価をした委員はならず、不採択ではない。採択か条件付き採択になる。事務局に確認だが、条件付き採択とは、付した条件をクリアすれば採択ということか。

【事務局】 採択するが、付した条件が実行されなければ、補助金は交付しない。本件の講師謝金は補助対象外であり補助額の算出に含まないため、申請されている補助額から減額することになる。そのため、条件ではないのでは。

【委員 C】 しかし、講師謝金が補助対象外で申請されている補助額から減額されるのであれば、事業を実施できず、申請そのものを取り下げる可能性はないか。条件を付して、条件を飲めば採択するという形になるのではないか。

【委員 A】 恐らく風と踊ろうに関しては、講師謝金が対象外になり、申請している補助額から減額しても事業が実施できないことはないと思うが、今後のことも考えて整理しておきたい。条件が付されることで申請を取り下げる可能性もあるのであれば、条件を付すが事業を実施できるかどうかを確認する必要があるだろう。今回は講師謝金については対象外であるため、申請されている補助額から減額することを条件とし、「地域との繋がりや実施の意義を社会的に位置付けるような考え方の整理をお願いしたい」をコメントとして添えて良いか。

【全委員】 良い。

【委員 A】 続いて、M. M. S. Tについて協議したい。両極端な評価になっているため、丁寧に協議したい。

【委員 E】 委員 E 容を理解できなかった。

【委員 A】 そうだと思う。先程、委員 C 委員が仰ったが、分からないものに対して、どのようなスタンスで臨めば良いだろうか。

【委員 C】 この事業は宗像という地域をどう捉えるかという話に繋がる。宗像を都市として見ていない方もいるかもしれないが、M. M. S. Tは都市として見ようとしている。これは、M. M. S. Tの挑戦である。宗像市で分からないものがあるということも文化資源として、有りではないかと思う。

【委員 A】 私も分からないものを持ってきたことに期待しており、その価値を認めたい。ただ、宗像市民にとって価値のあるものなのかという冷静な判断も必要である。

【委員 E】 申請書に記載の目的や期待される効果を見ると、期待したいところではあるが、この手法で実現できるのか分らなかった。新たな創造性のある文化芸術事業は、斬新な事業であれば良いというものではない。募集要項の対象となる事業の条件である「文化芸術活動を通じてまちづくりに寄与する事業であること」とあるが、これに該当するか判断できなかった。

【委員 A】 M. M. S. Tの生み出したものを市民が見たときに、市民以外の見え方を知ることによって新たな市の魅力に市民が気付くかもしれないという期待感がある。市

民が慣れ親しんだ活動だけでは得られないものが得られるのではないかと期待している。

【委員 E】分からないものに対する期待はある。

【委員 C】事業をきちんと批評する必要がある。事前に審査をして、報告まで聞くことになっているが、きちんとフィードバックする必要がある。実施した事業に新たな創造性があったか、まちづくりに寄与する委員 E 容か、宗像市市民文化・芸術活動審議会が認めた活動がどのようなものだったかを批評しなければならない。また、申請団体も批評を求めているだろう。申請団体が実施した事業を市として新たな創造性のある文化芸術事業といえるのかを批評していかなければ、醸成されていかない。

【委員 A】意見が分かれたことを、ぜひとも申請団体に伝えていただきたい。その上で宗像市において、このような活動を展開したいのであれば、どのような形で市民に還元するのかを問いたい。昨年度の公演では来場者がとても少なかったが、来場者数が少ないからといって悪い事業とは思わなかった。来場者が多ければ多いほど良いという考えもあるが、あの公演で展開されたことは宗像市では今までになかった委員 E 容だった。あの公演が宗像で開催されたこと自体は評価すべきである。ただ、この事業のことを知らない人が多いことは問題で、さまざまな手段で伝える努力をして欲しい。

【委員 E】補助金を交付している以上、自己満足ではなく市民に還元することが大切だ。

【委員 C】審査票に「団体の自己満足だけに終わらない市民向けの取り組みになっているか」とあるが、非常に判断が難しい。

【委員 A】M. M. S. Tは精一杯、地域と繋がりを持とうとしているが、それが伝わらない部分もある。M. M. S. Tと市や市民が歩み寄ることができると良い。その努力を継続していけるような街なのかを問われている。M. M. S. Tは国委員 E 外で評価の高い団体であり、宗像市がその活動を受け入れる街かどうかも試されている。

【委員 C】「自己満足だけに終わらない」が意味することは理解するが、芸術の分野では、分からないものを拒絶する時に上手く使われる言葉でもある。M. M. S. Tが演劇というものを問い続けている姿勢が自己満足でしている訳ではなく、彼らなりの誠実さを以って演劇や宗像市に向き合っている。彼らなりの向き合い方を自己満足と言ってしまって良いのだろうか。この言葉をどう捉えるかは気になるところだ。

【委員 A】採択にした上で、コメントという形で今まで出てきた意見を伝えてもらいたい。

【事務局】今回議論いただいた委員 E 容は、申請団体に採択、不採択の通知を送付する前に委員 A 会長にご確認いただきたい。委員の皆さんには委員 A 会長に一任いただいて良いか。

【全委員】良い。